

報告書
「フタバから遠く離れて」仙台上映会

日時：4月28日（日）午前の部10:45開場／11:00開演～13:00 午後の部14:15開場／14:30開演～16:30

場所：せんだいメディアテーク 7階スタジオシアター

入場料：前売・当日共に1,000円*未就学児無料

来場者数：午前、午後と併せて131人

*DVDレンタル代、広報、場所代等の運営費差引で発生した利益分は次回上映会運営費の他、後日使い道を公式ブログ等で報告予定です。

広報：twitter, ブログ、等web上で告知。チラシ配布を主に、脱原発イベント等で配布、市内11ヶ所の市民プラザ、メディアテーク、映画館、知り合いの喫茶店等6ヶ所、ボランティアセンター等に配布設置。

又、地元新聞社（河北新報）、テレビ局（KHB東日本放送）等メディアに取上げて頂いた。

*上映会当日はゴールデンウィーク初日の大きなイベントや石巻にて開催された脱原発のイベント等と重なり、「観たかったけれども参加出来ない」と事前にお断り頂いた方も多数いらっしゃいました。

仙台上映会開催の主旨：

映画に映る”双葉町”を通し、地域や境遇の垣根を越え、夫々が原子力産業の在り方を考え、又、福島と宮城の人々の心の交流のきっかけの場になればと、この上映会を企画した。

アンケートについて：

上映会ではアンケートも配布し、映画の感想等を書いて頂いた。

参加者の殆どが映画や監督へ向けてのメッセージを添えて回答しており、その全てを以下に記す。

1.本日はどちらからいらっしゃいましたか？

仙台 67人

仙台以外の宮城県 9人

県外 4人

他、無回答

2.どなたといらっしゃいましたか？

ひとり 43人

友人と 10人

家族と 21人

他、無回答

仙台上映会について

避難されているかたの思い、町の様子を知る事が出来た。仙台

宮城では福島の様子がわからないのでこの様な企画は良かったと思う 仙台

今後も企画して欲しいです 宮城

よかったです。参加者少なくて惜しいです。教員ですが、教職組合とも協力出来たら参加者増えたかもしれないです。（今度又あればそう出来るといいです。） 仙台

きてよかったですと思います。いつか自分で行くつもりです。
坂本龍一さん作曲、演奏の音楽はかなり すごい。 仙台

今回の上映会は友人からのメールで知り、原発事故に関心が有ったので参加しました。多大な費用をかけずに、多くの人達にこのような上映会のPRするにはどのような手段があるのか分かりませんが、地道な情報伝達を行って是非上映会を続けて下さい。 仙台

原発の不必要性等のPRをして欲しいと思います。 仙台

乳幼児には難しいテーマですので、託児設備等、何か考えた方が良くと思います。 仙台

上映会をもっと宣伝していればもう少し人が集まるのでは（お金はかかりますが）。仙台

上映会のご準備、大変だったと思います。お疲れ様でした。
また別の上映会が有る事を期待しています。今日は有難うございました。 仙台

以前から映画の事は知っていましたが、仙台で観る機会は無いだらうと思っていました。
偶然ちらしを発見し観ることが出来ました。子供OKとして頂いたのも有難かったです。 仙台

実行委員会のみなさん ありがとうございます。 仙台

政論も変わり、何事も無かったかのように原発再稼働の方向へ日本が向かっていくことに、何も抑止力を持たない自分が情け無くてなりません。無傷に見えてしまう仙台の中心部で、ずっと継続的にこういう映画の上映会を続ける事はとても大事（必要な）ことに思います。 仙台

上映会ありがとうございました。 仙台

上映会開催有難う御座いました。 仙台

今回の上映会はTVで初めて知りました（福島県民ではないのでアンテナが低かったのですね…）
企画していただきありがとうございました。でも、もっといろんな人に観て貰う機会があればと思います。もっとPRをすると良いと思います。 仙台

いきなり上映開始となったので最初におしらせや交流会の話をして上映開始になるとよいと感じた。 仙台

今後も期待しています。仙台

継続を望みます。若者へのPRの工夫。 仙台

貴重な機会を作っていただきありがとうございました。 仙台

今後も頑張ってください。 仙台

また参加したいと思います。
子供とも一緒に考えていきたいです。
どうぞよろしく御願います。 仙台

仙台も女川原発から近いし、他人事ではないです。もっと真実を知りたいです。
大手マスコミでは決して報道してくれないです。どんどんやって欲しいです。仙台

原発に無関心の人々にぜひ観て貰いたい映画だと思います。
入場無料にして、市民に知らしめて再度上映会をしてはどうかと思います。仙台

ぜひ、繰返し上映を。ありがとうございました。 宮城

原発事故が風化されつつある今、ずっと上映会を続けて欲しい。 大阪

ともあればテレビや新聞のみの情報しか得ていません。
もう少し、宣伝して多くの市民に訴えて欲しいと思います。 仙台

BGMが大き過ぎる箇所があり ちょっと残念。 仙台

上映会は良かったです。勉強になりました。 仙台

今後もおおくの方に観て欲しいので上映会を企画 実施して行って欲しいです。 仙台

青森出身です。六ヶ所のドキュメンタリー上映希望 青森出身 仙台在住

＊映画の感想、監督へ伝えたい事等＊
責任は誰も取らない。日本人は原発を持つ文化を持っていないのではないか 仙台

原発があるために復興が遅れている事が改めて分かりました。
色々な複雑な事が沢山あると思いますが、住民第一と考え国は率先して行動すべきだと思います
仙台

自分の立場に置き換えますと 言葉がありません 仙台

とてもむずかしい映画だと思います。
何と言って良いか判りません。
みんなに責任がある。 仙台

避難されているかたの思い、町の様子を知る事が出来た。
宮城では福島の様子がわからないのでこの様な企画は良かったと思う 仙台

想像していたとはいえ、実際にこうして避難されている皆さんの姿を見て、本当に心が痛みました。この現実を目を塞いでいてはいけないと思います。
続編を又宜しく御願います。よくぞ作って下さったと思います。 仙台

現在、双葉町の方々はどの様な状況にあるのでしょうか。
騎西高校にお住まいの方、酪農家の方、今年一月に東京へ行く機会があり、仙台もそうですが、事故前に戻ってしまっている事にショックを受けました。
本を読んだり、他の映画を見たり、NHKの色々な番組を見たり、自分の生活を省みたりしていますが、この映画を見て、改めて考えなければならない事が山程ある事に気が付きました。
自民党政権に代わってから、原発推進の姿勢がくっきりと出て来ている事がとても気になります。政治家にこそ、この映画を見、直接原発近くに、例え一週間でも住んで欲しいと思っています。支離滅裂でごめんなさい。 仙台

よかったです。参加者少なくて惜しいです。教員ですが、教職組合とも協力出来たら参加者増えたかもしれないです。（今度又あればそう出来るといいです。）
映画の感想は一言で言えずすみません。双葉町の皆さんの事、ずっと気になっていました。知らせて頂き感謝しています。
双葉町長さん、どうなったのか、希望の牧場、どうなったのか。これも気になります。強く脱原発を考えています（どういう事が自分にできるか…）。 仙台

大変ショッキングな映画でした。情報だけ聞いては分からない。多くの人に見てもらいたい。非常に良く作られていると思います。深い感銘を受けました。 仙台

福島に限らず、広範な地域の方々がどんなに困っても国や電力会社は何の保障もする気は無く只の捨て駒だったと思いました。
原発を導入した自民党議員団は反発時？何の責任もないような顔でいけしゃーしゃーとしている姿に怒りを感じました。
原発公布金に一度頼ると年数がたつにつれ減額され、更に拡大していかなければならない泥沼に陥ってしまう構造。元々あった産業つぶし。原発一本 仙台

きてよかったですと思います。いつか自分で行くつもりです。
坂本龍一さん作曲、演奏の音楽はかなり すごい。
町長の「原発誘致は失敗だった」の結論は明確。
しかし、政治も経済も、社会も、そうっていない。
「政治の問題ではなく」との発言がありましたが、これは「すぐれて政治」の問題と考えます。 仙台

これからどうなるのか、どうしたらよいか、日本全体が不安につつまれていますよね（あるいはちきゅう全体）。
フタバに残って牛の世話をしている牧場主の方に胸が一杯になりました。 仙台

全国の多くの人にこの映画を教えて貰いたいとおもいました。
先月NHKBSで「タイムグラバあちゃん？」というドキュメンタリーをやっていましたが、そうし

た形でもTVで放送出来ないかなと思いました。

原発は国全体が減んでもおかしく無い程のリスクがあり、女川で同じ事があったとしたら自分達も同じ目に遭っていたかもしれない。それは未来でも同じ事で、その現実分かってもらいたい。 仙台

事故から早い段階から撮影していて、丁寧に取られていると思いました 仙台

吉澤さんの家畜農家のやり場の無い怒り、分かります。

町民の悔しさや怒り、本当です。井戸川町長の言葉「間違っていた」本当です。全ての事に賠償を。東電と同じで、原発は無くさなければなりません。 仙台

予想以上に多面的な問題に触れている映画でした。

同時に絶望的な気分になる映画でした。 仙台

とてもよかった。続編を作って欲しい（大変な作業になりますが）。 仙台

誰が誰に伝えているのかも分からない「がんばろう」という言葉の下に覆い隠された、現実や苦悩、悲しみ。諦めない為に、期待をしないという選択をするのではなく、全てを理解出来なくとも避難した人々との一人一人の目に映る心象風景を思い浮かべ、現実と向合うことが、遅いかもしれないけれど今の”私達”のゼロ地点なのだと思います。その”私達”は誰なのかを問わないといけないのだと思います。 仙台

ナレーター必要だと思う。映画の流れが良く理解出来る為。

東電はビデオ公開したのはごく一部であり、全て公開する？活動すべき！！

被曝時、諸外国の応援支援を断ったのは当時国（自民党）の重大な失態！！

数年後、出演者の方々はどのような生活をしているのか追って行ってほしいし今後も継続して上映を願う。 仙台

避難生活を未だになさっている方々が15万人という言い方をしますが、

一人ひとりの生活、人生がめちゃくちゃにされた重みを もっと深く受止め、我が事として向き合う必要性を更に感じました。 仙台

とても具合が悪いです。こんなエネルギーいらないです。

どうしたらいいのか本当に分かりません。避難してる方々をどうしよう???

このようなことが2度とないようにするしか出来ることないのかも…。 仙台

放射能への不十分な知識と故郷への強い思いなどもきちんと折り込まれ、人達の抱える葛藤も伝わってきました。又、井戸川元町長の考え方の変化も追っていて良かったです。 仙台

原発事故の風化を望んでいるのは原発推進勢力の方々でしょう。風化させないために再重なる？告発が必要です。こうした映像による告発を増やして欲しいものです。 宮城

メディアでは知る事の出来ない現状を伝える意義は大きいと思います。こうした機会を与えて頂いて感謝します。 仙台

地道なドキュメントは大切なアーカイブなので続編も必要なのでは？。

地道な映画ですが重要な資料なのでしょう。 仙台

原発立地自治体の方には是非 我が事として見て頂きたいです。 仙台

私は仙台在住だが、実際に被災され避難している人達もかなり（会場に）みえているようだった。私は映画の内容だけから、良くここまで取材して撮影されたものだと思ったが、実際に被災された方からは一番酷い所は全然映っていない、期待外れだとの声が聞かれた。ラストシーン「原子力豊かな社会とまちづくり」の看板と何も無くなった町の風景の対照が印象的だった。

原発は本当に必要か。今迄もずっと疑問を感じて来たが。 仙台

ずっと観たい（観なければ）と思っていた映画でした。

「津波・地震なら復興できるが原発があるから復興できない」。井戸川町長の「原発誘致は間違っていた…」という言葉、重く受止めました。「原発は廃炉」の思いを強くしました。 仙台

政論も変わり、何事も無かったかのように原発再稼働の方向へ日本が向かっていくことに、何も抑止力を持たない自分が情け無くてなりません。無傷に見えてしまう仙台の中心部で、ずっと継続的にこういう映画の上映会を続ける事はとても大事（必要な）ことに思います。

後の座談会で双葉町の方の悪口がありましたが、もちろん描かれていない事も沢山あると思います。

一つの作品で描く事の出来ることにはいつも限界があるんじゃないかと思うのです。

2つめ、3つめの「双葉」の映画を作って、これからも発信していくことが必要なのではないかと思います。 仙台

言葉もない。これが…（読解不可）長い歴史があった国かと、無念。次の作品も御願います。 仙台

くやしさを強く感じました。

政府の対応…。この様な状況になっても原発を手放そうとしない。怒りを感ずります。 仙台

この映画を作ってくれて有難う御座います。

原発は反対と思ってるけれど、具体的に”なぜ”や”これから”を深く考えていた訳ではなかった。これと言って自分ができることはないけれど、”知る””知らない”は大きな差があると思います。 仙台

よく作られました。感謝します。ありがとうございます。皆さん いろいろな面で頑張りましょう！。 仙台

「断絶」「分断」の内容がよくわかりました。

これからも真実を記録して行ってください。 仙台

原発は原爆の技術を確保するために進めたのでは。

コストは交付金も原価に入れば一番高い電気料でしょう。それを隠しトイレの無いマンションを作ってきておしつけ？。こんな視点の描き方もあるのでは。

すべからず、メディアは事実（描く事の出来る範囲で）は描けても、真実はわからない。今回の映画でも。立ち入禁止地域はもっとひどい状況だろう。 仙台

F1で起きたこと、今も続いていること、メディアは伝えない。
真実を知りたい。知ったことを 伝えていきたい。
これからも情報を伝えて欲しい。 仙台

町民の方の「生活感」が伝わってきたのが印象的だった。TVのニュースだけでは伝わってこないものだと感じた。対照的に「全原協」？の総会で（前）町長の意見を聴いている人達の無表情な顔も印象に残った。
また、鈴木さん？のおじいさんが映画のDVDをもってきてほしいというのが少し面白かった。
ありがとうございました。 仙台

福島の上葉よりも酷い放射性物質の影響を受けた所も映画に映して皆に伝えて欲しいと、福島の上田町というぶらぐから来た方が怒っておられ驚きました。
もっと生の映像を伝えないと私達仙台の人にも伝わらないと感じます。 仙台

再稼働を進める社会にぜひ見せたい。 仙台

福島県人の気質をよく捉えていて良かったです。
ただOPの風のノイズとか、エム牧場とか、作務的な所が不用だったと思います。 仙台

伝えていかなくちやいけないと思います。
たくさんの人に見てほしいです。
上葉のひとを映像にして下さり本当にありがとうございます。 仙台

監督の勇氣に心から敬意を表します。真実をこれからもどんどん伝えて下さい。 仙台

牛の死んでいる様子が。
残された人々の今後を考えさせられました。棄民ということ。 宮城 七ヶ浜

何を今しなければならぬのか、
国のあるべき事が自民党はじめ、政治家が示せないことに苛立つ。
未来ある子どもたちに期待したい。 仙台

現地のあるがままの様子を追跡して行って欲しい。
すぐ忘れて又同じ過ちをくり返してしまう民族の特徴はやめて欲しい。 仙台

避難生活している人々の様子。苦悩が滲み出ていて心に染みしました。
町長の反省、原発に対する考えが変わったことは大切だけれど…。
牛のこと、頭に残りました。 仙台

原発事故の重さを改めて感じさせられる映画でした。 仙台

音が寂しかった。
字幕ではなく、ナレーションの方が子供やお年寄りにも入り易かったと思います。 仙台

いろいろ考えさせられる映画でした。 仙台

大変貴重な作品だと思います。 仙台

オープニングの風の音だけが あまり…。他は全てよく取材されてて良かったです。続きも観たいです。 仙台

生きている人がいたのに探し出せなかった
家があるのに帰れない

原発は罪の方が大きい 等 心に響きました。

自衛隊音楽隊の部分がちょっと奇異に感じました。

多くの人に観て欲しい映画だと思いました。機会があれば多くの友人に勧めたいと思います。 仙台

双葉町の皆さんが帰れるように なんとかならないでしょうか。 仙台

終わりのない双葉の人々の旅、胸が痛む。

原発再稼働を口にする人は、家族とこの映画を観るべし！。青森出身 仙台在住

今、除染の作業をしているので、除染の実態も伝えて欲しい。 大阪出身 仙台在住

放射線の低い場所で双葉町の一部しか上映されていない。私の場所（山田）は150年～200年帰れない。

我々は帰れない。帰れない場所の上映を願いたい。 現在宮城在住 元双葉町山田住民

当時妊娠中で福島市にいました。いまだに気持ちの整理がつきません。

子は生まれつき心臓に穴があいていました。「チェルノブイリハート」では死の病のように描写されており、何も知らずに観たのでとてもショックでした。子は手術し、今は元気に育っていますが、これからを思うとまだ不安です。 仙台在住

・上映会を終えて

上映会についての文章を、宮城県で長い間反原発運動をされている「みやぎ脱原発風の会」の会報誌へ寄稿しましたので下記に転記し、感想に代えさせていただきます。

「フタバから遠く離れて」仙台上映会

御陰様で上映会当日は130人余りの方に御来場頂いた。

震災以降、多くの方々が福島から仙台へ避難を余儀なくされているが、その現状を私達仙台市民の殆どが知らずに過ごしている。彼等は今どんな心持ちでこの街に身を寄せ暮らしているのか？。“直に触れたい”という欲求が私の胸の内にずっと在った。映画に映る“双葉町”を通し、地域や境遇の垣根を越え、夫々が原子力

産業の在り方を考え、又、福島と宮城の人々の心の交流のきっかけになればと、この上映会を企画した。

上記の主旨もあり、上映会は本編鑑賞後、午前午後共に、参加者同士のトークの時間を設け感想等を思い思いにお話頂く事にした。

双葉町、郡山、南相馬、福島市等から仙台へ避難されている方、福島が生まれ故郷の方、市外から来た方、そして仙台出身、在住の方々が会場に残り、先ずは福島の方に映画の感想や今抱えている思い等をお話頂いた。その発言を受け、仙台の方々からも映画の感想、今の思い、意見が次々に飛び出した。

その中で、双葉群の山田が故郷という男性は、双葉町より更に汚染されてしまった故郷の惨さを告発してくれるものが何も無いと資料を持参し私達に訴えた。

映画や報道、話題にならなければ生まれ育った故郷は忘れ去られ、刻一刻と町が死んで行く。現状からの悲痛な叫びだった。

今回の映画や福島の方の現実の声を初めて見聞きしショックを受けたという仙台の方も多くいらしかった。自分の住む宮城県南部の汚染の酷さを目の当たりにし、国や行政のひいた「線」に苦しむ方も。

山田の男性が訴える様な場所が福島に限らず点在している事も、忘れずに考えて行く必要がある。

「どちらが酷い状況であるかという悲慘を競うのでは無く、広域の汚染を認めた上でこれから具体的にどうしていくのか、夫々が考え声を挙げ行動して行かなくては前に進まないのでは無いか」という仙台や南相馬の方の声も上がり、地域の垣根を越え、本音を聞き合う大変意義深い時間となった。

終演後の交流会、アンケートに書かれた夫々の思いを読むと、この映画を、当事者として見る人、映画として見る人。

記録とする人、告発とする人、真実とする人、現実とする人…様々な印象が浮び上がり大変感慨深かった。

“皆が双葉の行方を案じ、次作を待望んでいる”事が夫々の思いの中で一つ合致する部分だろう。それを待つ間に、夫々が出来る事は何か。現実生きる私達が、その現実に直に触れ、知ろうと行動に表す一歩が今必要だ。上映会がそのきっかけになれば嬉しい。私自身も「次」があるように繋げていければと思う。

震災以降、原発事故で漏れ続ける放射性物質の汚染について。誰も立証の出来ぬまま「安全か否か」が机上で議論され、当事者である筈の避難者は置去りに再稼働の是非が決められていく。掛替えの無い故郷、命さえも「数」で区切られて行く。それを空目に進み行く“私”の日常に、ずっと強烈な違和感を覚えていた。

原発事故は“福島”で区切る事は出来ない、54基の原発を抱えるこの国の大きな社会問題であり、誰もが尊ぶべき命の問題である。

「フタバから遠く離れて」は原子力産業に翻弄される双葉町に生きて来た人々の“生活”を静かに捉え、原発問題の根底に在る“人は如何に生きるか”という命についての根源を問われるような映画だった。この映画を通し、その根源について夫々が思いを馳せ、“これから”を考えるきっかけになればと願う。

我々は今、大きな選択をする分岐点に立っているのではないだろうか。

あれから二年、呆然と立ち尽くしたまま。もう後戻りは出来ないし、待つてはいられない。

